

TALK IN JAPANESE FOR 6 WEEKS

WEEKLY

日本語で話す 6 週間

book 1

【トレーニングのヒント】 (活用編)

* トレーニングは、スポーツ感覚で体（口）に覚えさせましょう！

方法A：書いてトレーニングする

(例1) 活用プリントを使ってトレーニングします。

(例)

辞書形 じしょけい	意向形 いこうけい
飲む の	飲もう
書く か	書こう
撮る と	
食べる た	



トレーニングのヒント

*はやくできた学習者には、活用表で出した語彙と同じ絵カードを与え、口頭での練習をさせてもいいでしょう。

(例2) イラストの入った練習シートを使います。

(例)

意向形を書きましょう。

(読もう) () ()

トレーニングのヒント

*学習者間のレベルに差があるクラスでは、難易度で言葉を分けたプリントを用意しておき、学習者のレベルに応じてプリントを使い分けるといいでしょう。

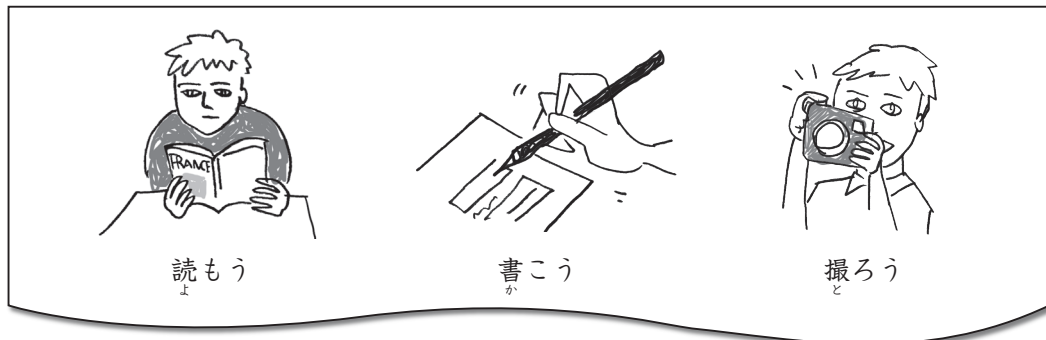
方法B：ペアでトレーニングする（その1）

(例) ペアになり、1人が教師役、1人が学生役になります。教師役用、学生役用のプリントをそれぞれ用意し、それに沿って、トレーニングをします。途中で役割を交代します。

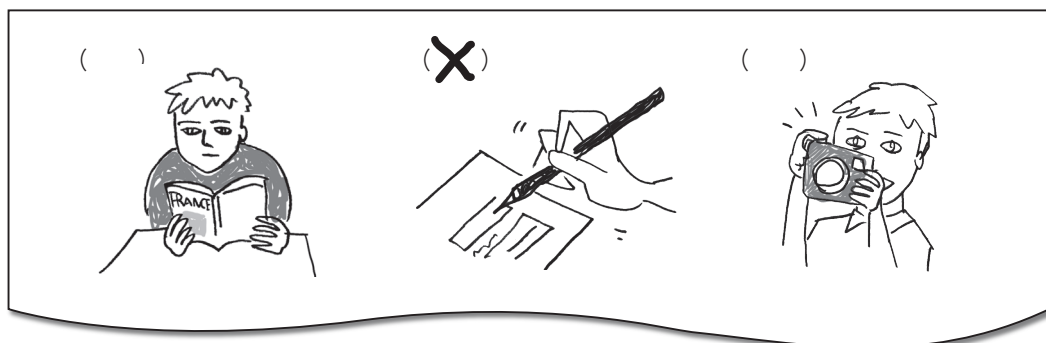
(意向形のトレーニングの例)

【用意するもの】

・教師役用プリント



・学生役用プリント



【手順】

教師役： ①学生役のペアのプリントの絵を指し、活用を答えさせる。

(例)



②学生役が答えたら、教師用のプリントの答えを見て、確認する。

③学生役が間違えたら、学生役のプリントの間違えた言葉の欄にチェックする。

④チェックした言葉がすらすら言えるまで練習させる。

学生役： ①絵のみのプリントを見ながら、教師役の指示通り活用を言う。

②言えなかったもの／間違えたものは、教師役にチェックしてもらう。

③チェックした言葉がすらすら言えるまで何度も練習する。全部できたら終了。

トレーニングのヒント

* 「先生役は厳しくチェックしましょう！」と指示をします。

方法C：クラス全体で口頭ドリルをする

(例) 教師のキュー（絵カードや言葉）に反応して、学習者が活用を答える練習をします。

(意向形のトレーニングの例)

[用意するもの]

- ・動詞の絵カード（クラス全体に見える大きさのもの）

[手順]

①絵カードを見せて、辞書形を言わせる。（言葉の確認）

- (例) T：(「飲む」の絵カードを見せる) [T：教師 L：学習者]
L：飲む
T：(「食べる」の絵カードを見せる)
L：食べる

②辞書形でキューを出して、意向形を言わせる。（絵カードは見せない）

- (例) T：飲む
L：飲もう
T：食べる
L：食べよう

③絵カードを見せて、意向形を言わせる。

- (例) T：(「飲む」の絵カードを見せる)
L：飲もう
T：(「食べる」の絵カードを見せる)
L：食べよう

④絵カードを見せながら、リピートさせる。

- (例) T：(「飲む」の絵カードを見せる)
飲もう
L：飲もう

トレーニングのヒント

*アクセントも正しく言えるようにしましょう。特に手順④ではアクセントも意識させ、教師のアクセントをまねさせましょう。ある程度のスピードでリズムよく行うといいと思います。

*ゆっくり正確に → スピードをつけて → 速く正確に

方法D：ゲームでトレーニングする

(例) 動詞のカード（文字またはイラスト）を使い、時間内に、何枚のカードについて正確に活用が言えたか競います。

(意向形のトレーニングの例)

[用意するもの]

- ・動詞の絵カード（クラス全体に見える大きさ）
- ・ストップウォッチ

[手順]

①教師は例を示しながら、ゲームの説明をする。

(例) 「15秒で何枚、意向形を言うことができますか。誰が一番多く言えるでしょう？」

「例えば…（自分が学生役になり、やってみせる）」

②学習者Aがスタートの声かけをする。

(例) 「用意、スタート！」



③学習者Bは、教師が示している絵カードの活用を答える。

(例) T：(絵カードを示す) [T：教師 L：学習者]

L：「書こう」

T：(絵カードをめくる)

L：「飲もう」



④学習者Aが終わりの声かけをする。

(例) 「終わり！」

⑤学習者Bは、言えた絵カードの枚数を数える。数えたら、教師にカードを戻す。

⑥教師は、戻された絵カードも合わせて、カードを混ぜる。

⑦別の学習者も同様に行う。

⑧最後に優勝者を称える。

トレーニングのヒント

- *ゲームは、始める前に参加者全員がルールや手順をきちんと理解していることが大切です。
- *見ている学習者に、「用意、スタート！」とスタートや終わりのかけ声をかけさせたり、時間を計らせたりすると、盛り上がります。
- *グループ対抗にすることもできます。連帯責任となるため、クラスやグループの関係に配慮することが必要です。

方法E：ペアでトレーニングする（その2）

(例) ペアの1人がカード1枚を引いて質問し、もう1人が、「はい、～。」「いいえ、～。」で答えます。

(形容詞の普通形（非過去）のトレーニングの例)

[用意するもの]

- ・形容詞の絵カード（ペアで使う小さいもの）

[手順]

(例) 普通形（非過去）の練習

- ①ペアになる。
- ②1人がカードを1枚引く。
- ③カードを引いた人は、カードと反対の意味の語で質問する。
(例) カード：大きい 質問：（カードを見せながら）「小さい？」
- ④質問された人は、絵を見て、答える。
(例) 「ううん、小さくない。大きい。」
- ⑤役割を交代して、繰り返す。

トレーニングのヒント

- * 普通形トレーニングは、「過去」「非過去」を限定したり、その日に取り上げる品詞を限定したり、混ぜたりとクラスのレベルによって変えます。
- * 間違えたカードは別によけておき、最後にもう一度確認するようにするといいです。